

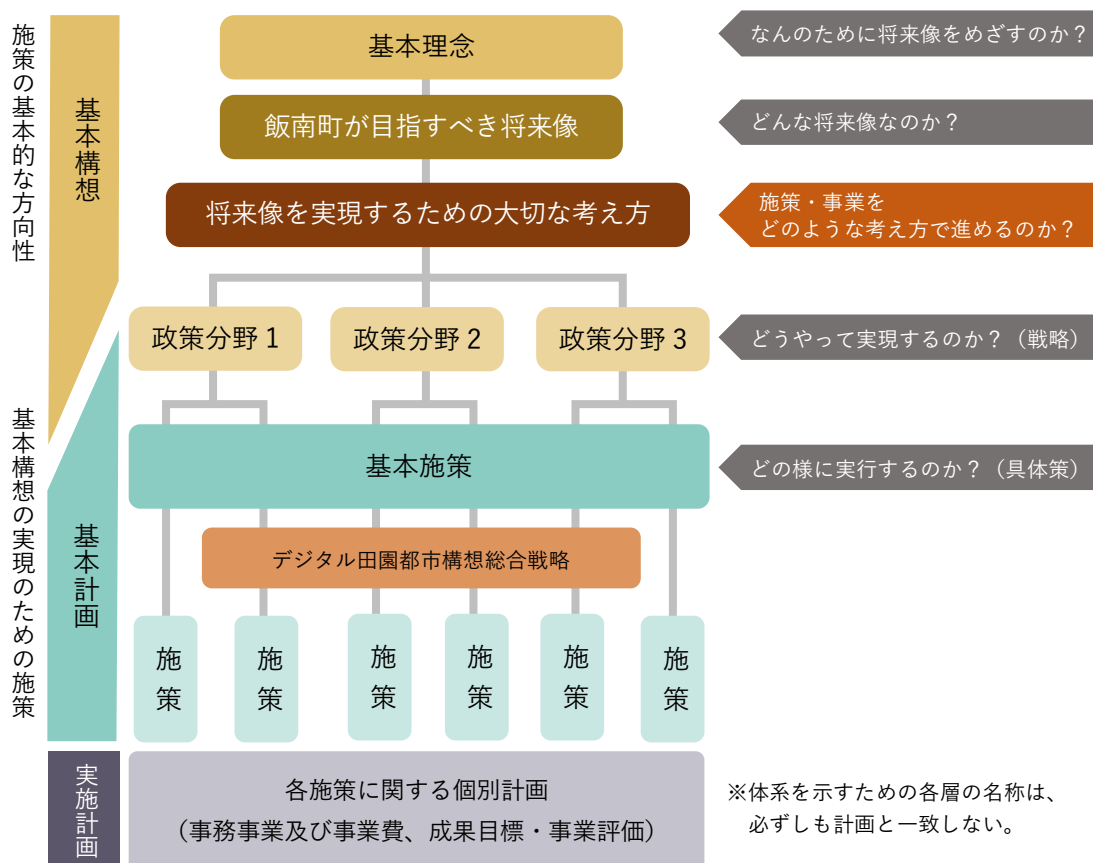
基本構想に関する検討

1. 基本構想の構成

「基本構想」は、総合振興計画における施策の基本的な方向性を示すものです。町政運営を示す指針として、計画期間 10 年とする長期計画です。町政運営の指針として、以下の内容について示します。

- 基本理念：まちの将来像を実現する目的、計画全体を貫く基本的なまちづくりの姿勢
- 飯南町が目指すべき将来像：将来的にあるべきまちの姿
- 将来像を実現するための大切な考え方：施策を進めていく上での考え方（※）
- 政策分野：将来像を実現するための戦略

【第 3 次飯南町総合振興計画（仮称）の構成イメージ】



（※）「将来像を実現するための大切な考え方」の設定について

「飯南みらいばなし」の検討結果や策定委員意見等をふまえ、施策・事業を進めるうえでの考え方を設定します。

2. 飯南町を取り巻く課題

① 急速な人口減少

本町では、総人口 8000 人だった昭和 55 年から、令和 2 年までの約 45 年の間に総人口が 4 割(約 3600 人減少)しています。平成 22 年からは平均 100 人/年が減少し、令和 2 年には 4,577 人となりました。

2045 年には、さらに 4 割が減少すると推計されており、このままではまちの持続可能性に大きな影響を及ぼします。

② 少子化と担い手世代の流出

同じ昭和 55 年から令和 2 年の間に年少人口は 7 割減少しており、総人口より早いペースで減少しています。第 2 次ベビーブーム直後である昭和 50 年では 102 人だった出生数は、平成 30 年から令和 4 年までの 5 年間で 22 人/年まで減少しました。

また、人口移動をみると 1980 年代では中学校卒業時に一度町外に転出超過となった人口が、就職などにより 20 代前半の前半に町内に再び戻り転入超過となっていました。2000 年代になると、戻ることが少なくなり、20 代前半で転入超過となることがなくなりました。

このように、就職時に町内に戻ってくる若者が減少することで、さらに少子高齢化が加速することが考えられます。

③ 産業の担い手の高齢化・地域経済の縮小

出生数の減少や若者の町外流出により、本町の生産年齢人口は昭和 55 年から、令和 2 年までの約 45 年の間に 6 割減少しており、あらゆる産業分野における担い手確保が一層困難になることが考えられます。

町の基盤産業である農業の就業人数は 7 割が 60 歳以上であり、30 歳以下は 10%に満たない状況です。このほかの産業分野でもこのような担い手の高齢化が進んでおり、この状況がさらに深刻化すれば地域の経済活動はさらに縮小することが考えられます。

④ 自分らしく暮らし続けられることへのニーズの高まり

18 歳から 59 歳まで町民 500 人に飯南町での暮らしに対する幸福度・満足度について、意識調査したところ、暮らしの幸福度は全国平均より高い結果となりましたが、満足度は医療・福祉、買い物、交通、デジタル生活、雇用などに対する主観的評価で特に低い評価となりました。

生活環境や地域福祉が将来的な幸福度にも影響している可能性があり、年齢を重ねても安心して自分らしく暮らし続けられるまちづくりへのニーズが高まっています。

⑤ 文化・地域資源の継承・新しい価値化への要請

本町では、出雲大社神楽殿の大しめ縄の制作が行われるなど、しめ縄づくりの技法と伝統が受け継がれています。また、各地区で行われる囃子奉納など、郷土の文化が根強く守られています。

中学生・高校生へのアンケート調査では、10 年後の飯南町の姿として「自然環境・景観が保全されている」「伝統・祭り・歴史文化が継承されている」ことが望まれており、本町の伝統・文化、自然環境・景観を守り、生命地域宣言の理念のもと新しい価値を創造していくことが求められています。

⑥ 生活の質を向上させるデジタル技術活用の必要性

デジタル技術の進展により、一人ひとりの状況に応じたきめ細かいサービスが低コストで提供できるようになり、多様な国民・ユーザーが価値ある体験をすることができるようになります。

人口減少にともなう担い手が縮小するなか、行政をはじめとするあらゆる産業分野における業務効率化や多様化する消費者ニーズに応え生活の利便性を向上するために、デジタル技術の活用が必要不可欠となっています。

3. まちづくりの基本理念について

- ・ 現行計画の「小さな田舎からの『生命地域』宣言」を継続して基本理念として掲げます。
- ・ 現行の基本理念の本文は、『生命地域』宣言を理念とすることを表明していますが、『生命地域』宣言の内容については、あまり触れていないことや、近年の飯南町の情勢にあわせ、本文の更新を検討します。

【飯南町の基本理念】

小さな田舎からの『生命地域』宣言

【現行計画】

飯南町は、小さなまちです。
しかし、生命湛える源流があります。
美しい里山があります。
そして、これらの恵みを活かした日々の営みが守られてきました。
私たちは、この小さなまち飯南町が、
豊かな資源をもった
生命の源『生命地域』であるとの誇りをもち、
「小さな田舎からの『生命地域』宣言」を基本理念として、
いきいきと生命満ち溢れる
郷土の実現に向けた
まちづくりを進めていきます。

【現行計画の基本的なまちづくりの姿勢】

いきいきと生命満ち溢れる郷土づくりを実現する

【更新案】

飯南町は、小さなまちです。
しかし、生命湛える源流があります。
美しい里山があります。
そして、これらの恵みを活かした日々の営みが守られてきました。
**私たちが守ってきたこの里山の恵みは
人々が心豊かな暮らしを実現し、新しい価値を生み出すための源泉となります。**
**豊かさの“消費”から心の豊かさの“創造”へ、
未来に向かってまだまだ進化していく余白があります。**
**新しい豊かさの先進地として、
今ここに「小さな田舎からの『生命地域』」をあらためて宣言します。**

【更新案の基本的なまちづくりの姿勢】

新しい価値を生み出す・心の豊かさを創造する・新しい豊かさの先進地を目指す

【基本理念を踏襲する理由の整理】

- ・平成 17 年の合併時から現在まで一貫して基本理念として掲げられている。
- ・飯南高等学校では飯南町をフィールドとしたキャリア教育「生命地域学」が行われる等、町内で浸透している。
- ・アンケート、ワークショップ等から、「自然環境が豊かであること」に対する町民の想いが強く、将来的にも保全されることが望まれている。
- ・ただし、“新しい価値の創造”という考え方は、今後のまちづくりを語るうえで欠かせない観点であるため、本文（ポディーコピー）において「生命地域宣言」の主意がより強く伝わるよう編集した。

参考【「生命地域宣言」とは】

設定の背景

- ・平成 17 年 1 月の合併時から基本理念として掲げている。
- ・「島根県中山間地域研究センター」の設立時に掲げた「生命地域宣言」を基としている。

「生命地域宣言」

中山間地域は私たちの生命地域です。

20 世紀は、都市の世紀でした。

多くの人が自然豊かな緑の大地を離れ、日々暮らすようになりました。

しかし、生命を育む地域のことを忘れた文明は、行き詰まろうとしています。

21 世紀、「奪う」暮らしから「育てる」暮らしへ。

中山間地域へ、そして中山間地域から、新しい生き方を始めませんか。

新しい地域をつくりませんか。

今ここに、環境の世紀における先進空間として、中山間地域の再生を宣言します。

生命地域主義＝バイオリージョナリズム (bioregionalism)】

自分たちが居住し生活を営む場である地域において、自然と人間との昔からある相互のかかわりを再度見つめなおすことで、その土地の特性や自然の持続性を損なわないような生活様式を構築していこうという試み。

ある地域に存在する自然資源や、文化、歴史、技術などの人的資源を組み合わせ、地域の循環型社会システムをつくることで、地域独自の価値をつくり上げていくという考え。

4. まちづくりの将来像について

「将来像」は、今後 10 年間に取組む様々な施策の成果として、実現したい（すべき）長期的なまちの姿であり、将来像は以下のような視点により検討します。

（視点）

- ・現状や環境の変化を踏まえたもの
- ・総合振興計画をはじめ、各分野の部門計画における方向性を束ねるもの
- ・独自性のあるもの（飯南町ならではのもの）
- ・町民の愛着、共感、誇りにつながるもの（共感・親しみのあるキーワード）

【飯南町の将来像（現行計画）】

笑顔あふれるまち飯南町

10 年後にも

笑顔あふれるまちを目指して

私たちは地域の力で 様々な課題を乗り越え 安心して暮らせるまちをつくれます。

囃子の音色 ピカピカのお米に漬物、煮しめ

しめ縄の準備 雪の日の温泉 芽吹いた山菜の緑

ポピーの花々 ひんやりとした森の散歩道

思い出すと笑顔になる飯南の宝物を

私たちは次の世代に残していきます。

町民の笑顔に人が集まり 集まった人が笑顔になる

笑顔のリレーを 10 年後につないでいきます。

（論点）

- ・将来像はどのようなものがよいのか

（参考）将来像の方向性を検討する上での条件整理

- ①現計画の言葉を引き継ぐか、引き継がないか
- ②新たな計画の将来像に入れたいキーワードは何か
- ③将来像の文章は、長い方がよいか、短い方がよいか

【第2回策定委員会意見／まちづくりの将来像について】

意見要旨	観点
<ul style="list-style-type: none"> ・最近利他という言葉が使われている。共感や信頼のようなことを新しい価値にしていく時代になっており、そういった思いやりや共感で少しでも補っていくことができれば、子供たちが10年後こうなっていったらいいという方向に沿わせていくことができると感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利他の価値観
<ul style="list-style-type: none"> ・飯南町は小さい町だが、小さい町だからこそ日頃の見える関係、そういう中でつながりがものすごく強く、日頃の福祉活動も皆さん意識はしていないが、自然に昔から成り立ちでできているところがあるよう。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・高校生が利便性というより、飯南町の景観や自然を存続してほしいと希望していること、そうした教育が素晴らしいと感動した。飯南町らしさはそこにあると思う。四季折々の景観を守りながら、飯南町をただ通るといっただけでなく、お金も落とさせていただきたいし人の雇用にもつながるといいと思う。私も四季折々の風景が大好きで、森林等、今後そういうところにテーマを見いだせると良いと感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・四季折々の景観
<ul style="list-style-type: none"> ・食と健康と学びの3つが重なって初めて「笑顔」が出てくると思っている。お金は食など回すための一つの道具だという風に捉えると、食べられること、食料は今世界情勢を見ると必ず信じていいのかどうか。必ずここ10年で重要になってくる要素なので、あえてこれは押し出して強い決意の下でみんな食べていくという食料が大事だと思っている。 ・飯南町は他の町村に比べて学びの環境が非常に恵まれている。高校生が景観や自然が良いと思うのは、豊かな中で学んでいるからで、そういうところに目が及ぶ、広い視野で物が見られているということだと思っているので、この三本柱を飯南町では大切にしてほしいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「笑顔」のキーワード ・食、健康、学び
<ul style="list-style-type: none"> ・農業は農業だが、建設業も農業を支えていたりまた逆もしかり、そこお金が生み出されるので、お話あったように様々な産業が力を合わせてやっていけないと感じる。それが、子供たちが望むような自然を豊かに守り続ける飯南町につながっていけばいいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・産業の支え合い
<ul style="list-style-type: none"> ・10年後の将来の飯南町を実際に生きて担っていく世代、中高生がこの町での生活を楽しんでいられるように彼らの願いや希望を環境で整えて若い力で町を活気づけることができればよいと思う。 ・イメージは「若者が元気でイキイキしている」⇒「こんな活気に満ちた若者がいる場所で子育てしてみたい家族」⇒「こんな若者が将来の飯南町にいるのなら任せられると思う年配者」⇒「期待を持ってみられる若者がますます元気でイキイキする」という円環サイクルになるような町づくり。 ・若者の既成にとらわれない新しい考え方・願い・価値観が次の飯南町の次のステージへの道しるべとなればよいと思っている。若い時から飯南町での役割があると思える若い人はここを自分の居場所として選ぶことができるのではないかと思ったりもする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若い力で活気づくまちづくり

【飯南町の将来像（案）】

将来像（案）とコンセプト

「次代への引継ぎ」をテーマとした案

案1) 笑顔と誇りを未来へつなぐまち 飯南 ～持続可能な地域づくりへの挑戦～

- ・先人が残してくれた自然や伝統文化、美しい里山、心豊かな暮らし、地域・人のつながりなど、私たちが「誇り」を持ち、思い出すと「笑顔」になる飯南町の宝物を次の世代にバトンとしてつないでいく。
- ・人口減少や少子高齢化が進行するなかでも、地域の力で様々な課題を乗り越え、笑顔を次の世代の子ども達に残していくため、将来的に持続できるまちづくり・地域づくりへ挑戦をしていく姿を将来像とした。
- ・持続可能な地域づくりとは、地域が存続してあるというだけでなく、この誇りや笑顔につながる飯南町の宝が次の世代に脈々と受け継がれていることこそが大切なのである。

相手を思いやる気持ち「利他」をテーマとした案

案2) とともに暮らし支え合うまち 飯南町 ～つなぎ続ける笑顔のリレー～

- ・飯南町には、地域の人々を家族のように思いやり、お互いに支えあう「利他」の精神が、あたりまえに根付いている。自然や伝統文化、美味しい食べものだけでなく、この「利他」の心も飯南町の誇る宝である。
- ・人口減少や少子高齢化が進行するなか、地域の力で様々な課題を乗り越えるためには、相手を思いやる心や自分を取り巻く地域の幸せを考える気持ちが必要となる。
- ・町民同士がともに支えあい、他者を思いやることで、笑顔のリレーが地域全体だけでなく、10年後の未来の子どもたちにもつながるまちを将来像とした。

ブランドイメージ「余白」をテーマとした案

案3) 余白輝くまち ～「新しい豊かさの先進地」余白をパワーに変えるまち～

- ・飯南町のブランドメッセージ「余白あります。」は、未来に向かってまだまだ進化していく可能性のあるまちだということを「余白」という言葉を使い示している。
- ・「余白」（＝未来に向かって進化していく可能性）とは、豊かな自然、おいしい食べ物、伝統文化、緩やかに時間が流れる暮らしなど、飯南町だけがもつ魅力や資源から、新しい価値を創造できる可能性のことである。
- ・この可能性を最大限に輝かせ、都市部のような物質的な豊かさよりも、心の豊かさにつながる「新しい豊かさ」を創造する姿がまちの将来像であり、飯南町が「新しい豊かさの先進地」として輝いている姿を表現した。
- ・人口減少や少子高齢化が進行するなかで、様々な地域課題を解決するには、地域の知恵と力によって心の豊かさにつながる新しい価値を創造することが求められている。

5. 将来像を実現するための大切な考え方について

「飯南ミライばなし」の検討結果より得られた「10年後のまちの姿」や策定委員意見等をふまえ追加します。

具体的に今後10年間、飯南町がどのような姿勢・考え方で施策・事業を進めていくかを位置づけたものです。

設定におけるキーワード（WS・策定委員会等より）	
<ul style="list-style-type: none"> ・世代をこえて、老若男女 ・活躍、夢をもてる ・健康で快適な暮らし ・破綻しない、持続可能 ・前例のない企業 ・利他 	ほか
将来像を実現するための大切な考え方（案）	
<p>① 人口減少社会に適応した持続可能なまちをつくります 既存の課題だけでなくグローバルな視点で未来を見据えた取組を促し、地方創生の取組を加速します。そして、未来へ引き継げる持続可能なまちづくりを進めます。</p> <p>② 世代を超えて誰もが活躍できるまちをつくります 高齢化が進展する本町では、高齢者の活躍が地域の活力となっています。子どもから大人、高齢者まで、様々な層が世代を超えて活躍できる場を広げることで、心豊かな暮らしを実現します。</p> <p>③ 産業を活性化させ、仕事を確保・創出できるまちをつくります 若者がこのまちに住みたい、戻ってきたいと思えるためにも、地域の産業を活性化し働きがいのある環境を作ります。</p> <p>④ いつまでも健康で安心・安全に暮らし続けられるまちをつくります 高齢になっても、このまちで安心して幸せに暮らすことができるよう、ハード整備だけでなくソフト面でも生活の環境を整えていきます。</p> <p>⑤ 豊かな自然や誇れる文化、地域資源を結びつけ新しい価値を生み出します 美しい里山や豊かな自然、地域で継承されている文化を守り継承していくとともに、これらの本町の魅力や資源から、心を豊かにする新しい価値を創造します。</p> <p>⑥ デジタルの力を活用し、より便利に暮らせるまちをつくります 一人ひとりニーズに応じたきめ細かいサービスを効率的に提供できるよう、デジタル技術を活用できる環境を整えていきます。</p>	